

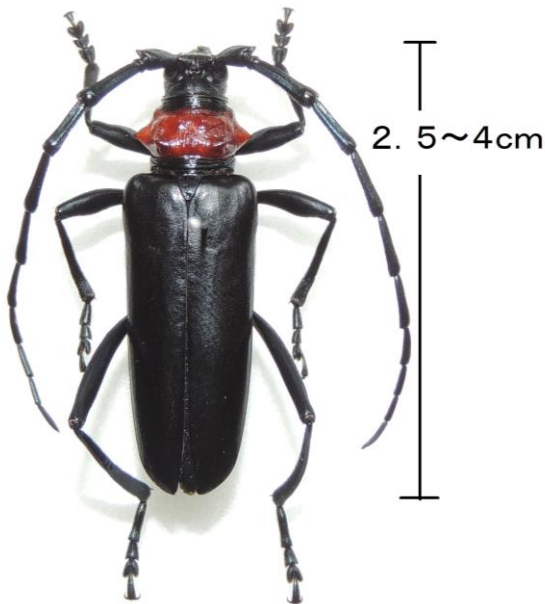
# クビアカツヤカミキリ

## にご注意ください

果樹やサクラへの被害拡大が懸念されています

クビアカツヤカミキリは、海外から侵入し、生態系等に問題を引き起こすとして、特定外来生物に指定されました。

県内では、利根川や綾瀬川沿いの市で、サクラを中心に被害が確認されています。



成虫は全体に光沢のある黒色で、首回り(前胸背板)の赤色が特徴です。

6月~8月上旬に現れ、樹皮の割れ目に産卵し、繁殖力が旺盛です。



大量のフラス  
が特徴

幼虫は、モモ、スモモ、ウメ、サクラ等の主にバラ科樹木の内部を激しく食い荒らし、大量のフラス(糞と木屑が混ざったもの)を排出します。

1本の樹体に複数の個体が侵入すると、樹体が枯死することもあります。

# 県内での被害の様子



幼虫の期間は2～3年。春～秋に樹木を摂食し、範囲は心材にまで及ぶ。

## 防除対策 -早期発見、早期防除が極めて重要-

- 成虫を見つけた場合は、捕殺してください。
- 被害の拡大防止には、伐倒処理が最も有効です。伐採した木は放置せず、焼却処分をしてください。
- 伐倒処理できない場合には、フラス排出孔から登録農薬を注入し幼虫を駆除する又は、成虫の分散防止のため、羽化期(6～8月)前に、幹にネット(目合4mm以下)を巻くなどの処理をしてください。

### 果樹類のカミキリムシ類を対象とした農薬

平成31年3月1日現在

農薬の名称 (農薬の種類)	適用作物	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
ロビンフッド ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリンエアゾール)	果樹類(注1)	収穫前日まで	5回以内 (注2)	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射
バイオリサ・カミキリ (ポーベリア ブロンニアティ剤)	果樹類	成虫発生初期	—	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける

(注1) いちよう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く。  
(注2) 農薬成分のフェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数は樹種ごとに異なる。

農薬使用に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

本虫による農作物被害については、埼玉県病害虫防除所まで御相談ください。  
(熊谷市須賀広784 電話:048-539-0661)

平成31年3月 発行:埼玉県農林部農産物安全課  
写真提供:埼玉県病害虫防除所、埼玉県環境科学国際センター



※本虫のより詳しい生態については、『埼玉県環境科学国際センター・ホームページ』で確認できます。